

連携先	BizRobo! アマゾン ウェブ サービス	利用シーン	業務自動化	業種	情報・通信
-----	---------------------------	-------	-------	----	-------



RPAツール「BizRobo!」と「ASTERIA Warp」で業務自動化範囲を拡張

電子書店の膨大なデータチェック業務やクラウドDWHへのデータアップロード処理をエンドツーエンドで自動化！

株式会社メディアドゥ
東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル 5F
URL : <https://www.mediado.jp/>

導入背景

株式会社メディアドゥは、“ひとつでも多くのコンテンツを、ひとりでも多くの人へ”届けること、それにより著作者に出来るだけ多くリターンし、世の中に良質な作品が生まれ続けるという“著作物の健全なる創造サイクルの実現”を目指している。メイン事業のひとつである電子書籍取次事業では1,700社を超える出版社の作品を取り扱い、150店以上の電子書店向けに電子書籍ファイル・書誌情報の提供や販売状況の管理などを行っている。それらの業務では手作業も多く、コンテンツ数の増加に伴い従業員に大きな負担がかかるため、今後益々業務が拡大した場合、業務クオリティを担保しつつけることが難しくなる可能性も出てくる、という課題があった。それらの課題を解決するため、RPAツール「BizRobo!」を導入し単純作業をロボット化する事を検討した。導入に際し、さらに効果を高めるため、基幹システム間のデータ連携に導入していたASTERIA Warpを活用しBizRobo!と組み合わせることにより、業務自動化範囲の拡張を実現した。

課題	導入	効果
<ul style="list-style-type: none"> ● “目視”によるチェック業務 取引先の電子書店に対し、新刊やキャンペーンによる価格変更などの情報が正しく反映されているかを目視で確認していた。変更項目は月30万件を超えるため、人的ミス抑制のための工数増加が課題となっていた。 ● ロボットに付与されるアクセス権限 同社では、ロボットと言えど、セキュリティ面の対策によりアクセスできない基幹システムのデータ領域があった。 ● BIツール/DWHへのデータ収集 アマゾン ウェブ サービス(AWS)上に構築したBIツールへデータ連携方法を検討していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● WarpとBizRobo!の組み合わせ BizRobo!が得意なWebサイトのデータ収集作業をロボット化。収集したデータの確認処理などデータ処理はWarpを利用することで自動化処理を効率化。 ● ロボットのアクセス権限を最小化 基幹システムにある情報はWarpが取得し、BizRobo!用のデータベースを介することでロボットのアクセス可能データを制御。 ● AWSアダプターによる一元開発 データ収集・加工・TSV変換・圧縮・S3へのアップロード・Amazon Redshiftへの登録(コピー)という一連の処理をWarpで実装。AWSアダプターを使うことで視覚的にもわかりやすく簡単に開発。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運用コストの安定化 単純作業をロボットに置き換えることで、業務効率化、およびイレギュラーな業務の削減を実現。 ● データ不整合や作業遅れを防止 手作業をシステム化することで処理プロセスを標準化。人的ミスを防止し、作業精度の向上を実現。 ● 数万件の複雑なデータ加工処理を高速化 BizRobo!単体で行っていたデータ加工処理をWarpで実装することで、処理時間が3日から15分に大幅短縮。WarpとBizRobo!を適切に使い分けてパフォーマンス向上を実現。

選定理由

- 大量データ処理も安定して動作
- アダプターを利用することでサービス毎のAPI仕様を確認することなく直感操作で開発可能

WarpとBizRobo!の切り分け

【 BizRobo! 】

- Webサイトに表示されているデータを取得
- 1000件程の簡単なデータ加工処理
- その他、業務部門が行う画面操作で簡単に処理可能な作業

【 ASTERIA Warp 】

- APIがあるサービスとの連携
- 大量または複雑なデータ加工処理
- 業務部門が直接アクセスできない基幹システム上のデータ処理

お客様から一言
ASTERIA WarpのココがGood!



技術本部 エンジニア 能勢 拓樹 様

処理が可視化されるため詳細設計が必要なく開発工数を短縮出来ますし、リリースまでに必要な機能がすべてASTERIA Warpに内包されているためライブラリ管理やリリース作業もとても容易に出来ます。それにより、短期間で機能をリリースし実際に使ってもらいながら改善していくことでユーザーの意見を反映させやすくなるアジャイル開発が可能となり、業務自動化が促進されています。今後適用範囲を広げていくうえでBizRobo!との連携も多くなるので、より開発を簡単化するためにBizRobo!アダプターにも期待しています。

